

「白門」に学ぶ

外国人留学生

韓国

閔弼基

(ミン・ピルギ)さん

|| 理工学部2年

中央大学には500人を超す外国人留学生が学んでいる。その国・地域はアジアを中心に約30を数え、国際色にあふれている。留学の目的は様々だが、それぞれが向学心に燃え、キャンパスライフを楽しんでいる。日本の学生との違いは、など、お国柄の表情を織り交ぜながら、『白門』の留学生を紹介する。



小学4年生まで日本で生活

中大卒の父親の勧めで留学

中央大学で学ぶ外国人留学生で最も多い国は中国、次いで多いのが韓国で100人を超す。理工学部2年の閔弼基(ミン・ピルギ)さんは、韓国からの留学生の一人だ。

初対面の閔さんにまず、感心したのは流暢な日本語だ。どこで習得したのか聞くと、「3歳から小学校4年生まで日本に住んでいました」という。「日本に居たときは、家では、両親とも日本語で

話していました」というので納得できた。

閔さんは、その後韓国に帰国し、それからハンゲルを覚えた。「それまでは韓国語を話せませんでした」という。

子供時代を日本で生活した閔さんは、高校になっても「とくに留学しようとは思っていなかった」。それが、なぜ中央大学に留学したのかを尋ねると、「中大で学んで博士号をとった父親から無理やり願書を出せと言われた」からという。

閔さん自身は、「中大に入ろうとは思っていません。他も受験しましたが最終的に中大に

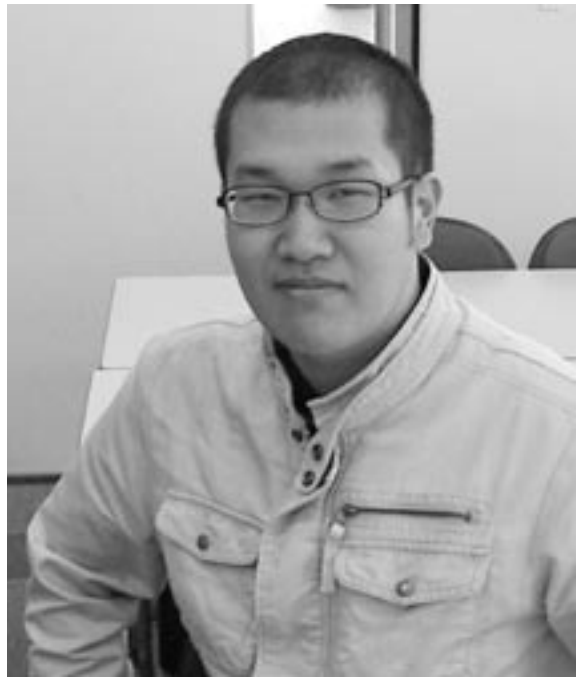
しました」というから父親から相当強力な後押しがあったのだろう。結局、父子2代の中大生が誕生した。

閔さんは、高校3年生の時まで文系だったが、「やり直そう。自分の夢を目指そう」と思い理系に転向した。「子供のころに父親の研究所でよく遊んでいた」ことが、理系転向のきっかけになった。

日本の学生は単位所得が第一 韓国の学生は成績を最優先

来日し、中央大学で学ぶようになって1年が過ぎた。日本の生活や学生生活にも十分慣れてきた。記者が気になっていた日本の学生と韓国の学生の違いについて尋ねると、「日本の学生と韓国の学生で凄い違いはないが、勉強に対する1番の違いは、単位取得の仕方の違いです」と指摘した。「日本の学生は、単位を取ることが目標。でも、韓国の学生は、成績がC、Dを取るようなら落とします。韓国の場合、E、FはGPA(Grade Point Average)に反映されません。だから1年見送ってでもいい成績を取ります」

日本の学生は卒業のための単位取得が第一。それに比べ韓国の学生は成績が第一というわけだ。この違いについて閔さんは、「韓国と日本の企業



将来は研究者に

しまう」と関さんは、ちよつぱり寂しそう。「多摩と後楽園キャンパスの違いかもしれませんが、理工の学生はすぐに帰ってしまいません」。

韓国人留学生会と写真会に所属

将来は研究者になるのが目標

関さんは学業以外に、韓国人留学生会と写真会に所属し、精力的に活動している。韓国人留学生会の会員は、学部生、院生あわせて約90人。1991年から機関紙を

という。

「将来は研究者になる」という関さん。「修士を取ったら一度社会に出て働いて、その後大学院に戻って、30歳までに博士を取りたい」と目標を立てている。また、「4年でファンダメンタル・エンジニア（FE）を取って、最終的にはプロフェッショナル・エンジニア（PE）を取りたいです」と将来プランを設計している。

「学食にちよつと飽きてきた」という関さん。「水道橋の隠れた店を探すのがいまの楽しみなんです」と、取材後、お気に入りの店を探しに後楽園キャンパスを後にした。

（学生記者 上田雄太II文学部4年）

の考え方の違いからではないでしょうか」という。

「日本の企業は、大学の成績よりもSPI（総合適正検査）が重視されます。でも、韓国の企業は、大学の成績が重視されます」と解説してくれた。

面白いことに関さんは、学生の飲み会の違いについても挙げた。「日本の学生は、飲み会るとき、飲み放題にしますが、韓国の学生はオーダー制に

します」。その理由は、「飲み放題は得をしないから」だという。飲み放題は決して“お得”ではない、経済的でない、ということのようだ。

「日本の学生は、授業が終わるとすぐに帰って

年1回作成しているほか、親睦とレクリエーションを兼ねてボーリング大会（5月）、合宿（8月）、運動会（10月）などを行い、ホームカミングデー（10月）では模擬店を出店し、卒業生との交流を深めている。

関さんは韓国人留学生会について、

「中大以外の留学生会は、飲み会重視のところが多い。でも中大の留学生会は、幅広い活動をしています。OBとの繋がりも、慶應や早稲田よりも強い」



韓国人留学生会が発行する機関誌